思いがけない時に

２０２６年2月１５日

序：教会（新約時代の聖徒のすべて）の携挙はいつ起こるか
　　ペンテコステ～携挙の間のどこか
　　患難期中でも、患難期後でもない
　　患難期より前

Ⅰ．なぜ患難期より前か
　患難期のことを啓示した箇所に「教会」は一度も出てこない
　　黙示録　１～３章　　患難期前のこと　「教会」登場
　　１９～２２章　患難期後　　〃
　　４～１８章　　患難期中　　「教会」は一度も出て来ない
　　「聖徒」は登場、ただしそれは患難時代の聖徒
　　教会時代の聖徒でない

Ⅱ．根拠となる聖書箇所
　⑴ルカ　２１・３４～３７
　　35　⑴その日＝神のさばきの日
　　⑵神のさばきは全人類に及ぶ
　　⑶地上にいては免れることはできない
　　36　⑷唯一の逃れる方法＝信者として人の子（イエス・キリスト）の前に立つ
　　⇓
　　ヨハネ　１４・１～３　　携挙後
　　テサロニケⅠ　４・１３～１８

　⑵テサロニケⅠ　１・９～１０
　　⑴御怒り
　　①罪にたいする一般的怒り（現在）
　　②患難期における神の怒り（将来）
　　⑵信者は御怒りから救い出される
　　①信じたとき以来、罪にたいする御怒りからの解放が保証
　　10②患難期の御怒りからも解放されている約束

　⑶テサロニケⅠ　５・１～１０

(1)御怒り (9)＝主の日 (2)＝患難期に会わない
新約の聖徒たち（教会）はそこにいない
すぐ前の４・１３～１８は携挙
(2)５・１の冒頭に接続詞ペリデがある（別の話題に変わる）
主の日：御怒りの時
(3)9 救いを得るよう定められている
8 救いの望み＝将来起こる救いへの望み
携挙の時に、新しいからだによみがえる
(4)4~8 教会は主の日を恐れなくてよい
信者
昼の者　暗闇

(4)黙示録　３・１０
(1)試練の時＝患難期
教会が患難期の中で守られるのではなく、患難期そのものを通らない
(2)患難期の多くの聖徒たちは死ぬ（by　反キリスト）
教会時代の信者と患難期の信者を区別する必要

Ⅲ．携挙はいつ起こっても不思議ではない
前提条件なし

(1)マタイ　２４・３６～４４
父なる神のみご存じ
突然、思いがけないとき

(2)ヨハネ　２１・２０～２３
イエス・キリストはヨハネが生きている間に戻って来られる可能性があった

(3)ヤコブ　５・７～９
主の来臨は近い
さばき主が戸口に立っておられる

(4)黙示録　２２・２０
わたしはすぐに来る

今の時点～７年の契約を反キリストがイスラエルと結ぶまでのある時点で起こる

私たちは主を信じ期待して、忍耐をもってその時を待ち望む
すぐにでも起こることとして備えて　〃